那須で始まる
わたしらしい
暮らし方
NO.03

大好きなアウトドアをライフスタイルに

静閑な那須町の森の奥にひっそりと、しかし存在感を放つ佐藤大助さんこだわりのコンテナ風一軒家。
アウトドアをするにはたまらない環境だろう。

仕事をしながら、森の中に住む憧れ。

キャンプが好きなアウトドア派の佐藤大助さんは、自然豊かな森の中に住みたいと考えていた。「最初は土地を見つけて、テントだけで暮らしてみるかって思ったんですけどね（笑）。」家を建てるなら変わった家を建てたかったのだという。

最初は東京までの通勤時間が新幹線で二時間程度までと考え、那須町か軽井沢、それか神奈川県三島を移住先の候補に入れていた。自分が探していた条件に合う土地が那須町にあったこと、元々栃木県出身だったこともあり、大助さんは最終的に那須町への移住を決めた。実際那須町から会社までの通勤は二時間程掛かるが、新幹線の中でも仕事ができるので、そこまで苦ではないという。

移住後、大助さんは東京で知り合った奥さんと結婚。東京で仕事をしていた奥さんも那須町を気に入り、最初は二人でここに住んで東京へ通っていた。子どもが生まれてからは、東京に通勤するのが大変になり、奥さんと子どもは現在東京に住んでいる。

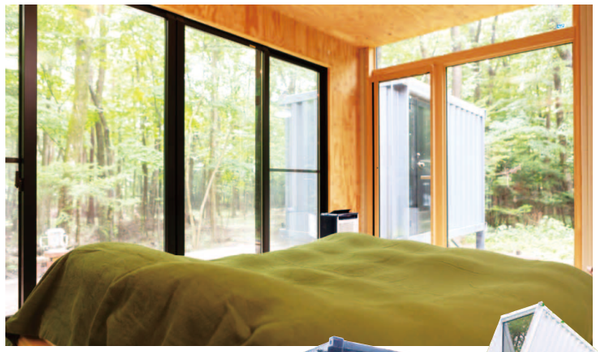
できれば子どもにも自然が多いこの場所で自然と触れ合いながら育って欲しいと願う。

「子どもが大きくなって落ち着いてきたら、こっちで家族一緒に暮らす予定です。でも元々移住してきた時は独身だったので、なるべく人気のない森の中を選んだんですよ。」子どもを学校に通わせることについて多少交通面で心配があるようだ。

那須町北部に移住

佐藤大助さん

インターネット eコマースの会社に勤める。栃木県宇都宮市出身。2016年3月に那須町に移住。移住前は東京都世田谷区で生活。



海外で人気のコンテナを使った建築に興味があったため、コンテナ風デザインの鉄骨造りとした。家の内部は、本人の希望でベニヤを打ちっ放しにして木の風合いを出し、暖炉を置いたり、斜め45度の大きな吹き抜けを作ったりと、思いのまま作り上げた。

好きなことを追求し、町の未来を考える。

家の周りには野生の動物がたびたび出るという。人間が住むところという よりは動物が住むところに居を構えているような感覚。実際住んでみて「那須町はこういう所だと大体のことは想定内でした。この環境で住もうって思っていたので。でもカビは想定外でしたね（笑）。」家の中では除湿器が数台常に動いているという。勤め先の会社はフレックスで比較的就業規則が自由なので時間に追われるということもなく、週に一回は自宅で仕事をする在宅ワークもしているそうだ。那須町に移住してからは、なるべく自宅で仕事をする時間を増やしているという。在宅勤務ができる職種であれば、通勤時間が削減できたり、静かな場所で集中して仕事をしたい人にとってはうってつけの環境といえるだろう。

都会にいるよりもこちらにいる方が楽しいという大助さん。「都会でも飲みに行って仕事の疲れはリセットできますが年を重ねるにつれ、緑に囲まれた自然の中に身を置くことで癒されるんです。ここはリセットできる環境なんですよね。」

大助さんは、休日に友人を集めて庭をいじったり、キャンプを楽しんでいる。

「自力でどこまでできるか、将来的にはキャンプ場とか作れたらいいよねって話しています。」

土地を選ぶときも、キャンプ場を作れるような広い平地の森を探していたようだ。休日の那須町は周りの県からの観光客が多く、連休となるとキャンプ場は空きがなくなり予約がなかなか取れない程。「なのでまだまだキャンプ場は増やせると思うんですよ。東京から沢山来てもらって那須町の魅力を知ってもらい、ゆくゆくは人がどんどん住んでくれるようになったら最高ですね。人が増えて地域活性化に繋がることが大事だと思うんですよ。そうすれば地元の人達は嬉しいじゃないですか。」と熱く語った。

都会では実現できないことをこの那須の地で今、形にしようとしている。

勤務先のアウトドア仲間の皆さん。大助さん宅の庭づくりや敷地の整地を手伝いに度々那須町を訪れるという。

移住者から見る那須町の補助制度。

「移住に関しての補助金がもっと潤うと良いですね。でも知名度がある那須町には制度以外の魅力があるんだと思います。なので多少お金が掛かってしまうのはしょうがないのかなと思います。」大助さんは那須町に移住した際、『浄化槽設置補助金』や住宅ローンの利子の一部を町で補助する『住宅建設資金利子補給制度』などを利用した。那須町に定住すると五十万円支給される『移住定住促進住宅取得等補助金』はタイミングが合わず受け取れなかったが、受けられるものは大体受けたそうだ。

社内でも地方への憧れを持っていて移住したいという人が多いようで、よく通勤費や補助制度を聞かれるという。都会ではライフスタイルとしてアウトドアを生活に取り入れたい人が年々増えているという。

「子育て関係なく移住したい夫婦だったりとか独身の人は良いんじゃないかな。夫婦二人暮らしや、そういった人達だと余裕を持って暮らせると思うので丁度良いと思うんですよ。」